

【産業人材の育成等に関する意見】

- 沖縄県は人口減少局面に入ったものの、他のエリアに比べると少子化の進行が遅く若者が多い。一方で、ワースト1位の失業率であり、早期の離職を止めて、キャリアアップやリスキリングができるような組織や産業を作ることが重要。
- 仕事に就きながらスキルアップできるよう、雇用のフレキシキュリティを確保していくことが重要。
- 地域で育み、地域を支える人材を育てていく、人材の還流を作り出す仕組みの構築が重要。
- 企業の後継者不足が課題（後継者不在を理由に地域を支える黒字企業が廃業に至るケースも多い）。
- 沖縄への移住に際しての資金援助をすることで、人材を呼び込むことができるのではないか。
- 地域特性に合った振興策を進めるため、沖縄を知る者が振興策の発想から実現まで行うエコシステムの中にしっかり参画すること、またそのような人材がもっと育っていくことが重要。
- 観光産業が重要。現場で人を惹きつけ、また新たな価値を生み出すような高度人材にキャリアアップできる仕組みを作り、企業・産業の活性化に繋がる循環を生み出すことが重要。
- 第三次産業に働き手が偏っており、一次産業含め他の産業にうまく配分できていないのが問題。
- 学校教育と連携した早期からの産業人材育成や、沖縄の特性を活かすキャリア形成支援・産業教育を、柔軟性を持ちつつ体系的かつ系統的に進めることが重要。
- 女性参画等による意思決定の多様性が、産業構造転換や組織変革による生産性向上のため重要。

第43回沖縄振興審議会（1/16）における主な意見

【先進的な取組等に関する意見】

- 生成AIをはじめとする先進的技術を教育や産業に活用することが重要。これまでのDX推進の成果を土台に、デジタルの先進的技術を教育と産業分野で組み込むフェーズに入っている。
- 労働生産性が全国最下位の課題を抱える本県では、生成AIやDXが現状を打破する大きな可能性であり、今現場がいかにAIを使いこなして効率化に繋げるかといった、実益を重視した人材育成も重要。
- 生成AIなどデジタルに親しむα世代がこれからの社会で活躍するためには、幼少期からデータを読み解く力を育てることが重要。
- 沖縄に国産AI拠点やデータセンターを整備すべき。観光による人流と実証フィールドを併せ持つ沖縄は、社会実装を進めやすい優位性を備えており、分散型複数拠点構想とも親和性が高い。
- 2,300万人の大きなマーケットである台湾との経済的連携が経済振興・観光振興において重要。
- 観光を起点とした、住む・働く・投資をする価値を高める、成長設計型の沖縄振興が重要。

【その他】

- 生成AI活用による電力需要や小規模離島における電力不足について考えることが重要。
- クルーズ船で宿泊を伴わずに沖縄に来る観光客の割合が増加し、客単価が低くなってしまっているため、そこでいかに収益を上げるかということが一つの課題。